

有用金属資源の適正循環に貢献

中部使用済み製品R特集

産業革命は、はじめ、航空機、電機、石油化学
工業をその産業の中心地として発展させた。自動
車もその後の重要な産業となり、自動車工業は中
央工業地帯を抱えており、その輸出出荷額50
％以上が海外向けであり、この輸出の半分以上は
日本に供給されている。また、日本の歴史的な産
業地帯と云っても間違ではない、この巨大な
非排他的な市場内には、合資材を
使用した製品のサイクリング、先端的な商
品である事業に取組む意欲的な企業があり、近
年では特許済み小型車やサイク
ル中心地ともなりつつある同地帯の、資
源の適正化に向けた動きを見た。

先端技術で
レアアースRを実現

日本を代表する製造業の多くが、早くから先ず素材の循環利用に力を入れている。とりわけ、プラスチックのリサイクル技術に関する研究は盛んに進められてきた。

大塚商会（岐阜県岐阜市）の大塚商店長は、大塚清春社長が率いる大塚グループが、ネオジム磁石やリチウムイオン電池の再資源化事業に取り組んでいることを、レオスター・サイクルの事業化は国内初の開発案件と見做している。

資源循環と社会 貢献を高度に両立

小浜電機・サイクル
法の制定に先行し、中
を展開してきた
地域では数多くの処
体も協議して同
業者が使用済み小型
を活発化させる



間エコテクノロジー

小型家電

ウエスキ
独自技術でアジアに
向け事業展開

電Rの先進地域
技術力武器に海外進出も

[illegible]

樂	中
---	---

[illegible]